

令和3年度第1回大東市子ども・子育て会議  
議題2「教育、保育施設の利用定員の変更について」

委員氏名	資料番号 ページ数	ご意見・ご質問	回答
中田順子		放課後児童クラブや保育園、幼稚園の配置基準や人数を会議の時には別紙添付して頂きたいです。手だての必要な子どもの人数やSSWの配置人数も出来れば知らせて頂けたらと思います。	次回会議に向けて、検討を行ってまいります。
土砂政徳	資料2 3ページ	4. 小規模保育事業所における定員の考え方について《見直し案》①、②、③の考え方に賛成します。 また、別紙令和4年度当初の定員変更について賛同します。	
	別紙①	別紙1. 令和4年度当初の定員変更を予定している施設(5施設)の定員変更数は(資料1の1ページ)I. 幼児期の教育・保育の提供体制の確保内容の中の令和4年度の①量の見込み②確保内容の数値に反映されているのでしょうか?	変更後の数字につきましては、今回の資料1には反映しておりません。 子ども・子育て会議において定員変更についての承認を受けましたら、来年度に実施予定の、事業計画の中間見直しの際には反映を行ってまいります。
野口大仁	資料2	特に幼稚園由来の認定こども園においては、他市からの通園児も多く、2号・3号認定における近隣市との「広域利用調整【他市からの保育園児の受け入れ】」が強く望まれています。近隣市との調整も必要なことから、市独自ではなかなか難しい問題ではありますが、将来的なことや、利用者の利便性を考えると必要な措置ではあると思いますので、積極的に取り組んでいただければと思います。	2号・3号のいわゆる保育認定子どもの受け入れにつきましては、市内在住の子ども利用が優先されるべきであると考えております。 現時点におきましては、年度途中に待機児童が発生しておりますことから、広域利用の受け入れを積極的に実施するのは困難な状況であります。 今後につきましては、引き続き人口動態や利用ニーズの推移の把握に努め、状況に応じた見直しを図ってまいります。
野口大仁	資料2 3ページ	4、小規模保育事業所における定員の考え方について 小規模保育の利用が低迷している理由、また、年度後半に入所が進む傾向の理由はどのようなことが考えられますか?	小規模保育事業所は0歳から2歳児までの受け入れとなっており、5歳児まで利用可能な保育所等を希望する保護者が多いことから、年度当初は入所者数が少ない傾向となっております。 一方で、年度途中は利用人数が定員に達する保育所等が増えることから、小規模保育事業所を選択する保護者が増えるものと考えられます。

		<p>利用が進まないことで収支が安定しない状況とあるが、各事業所は入所促進に向けた取り組みを、どのように行っておられますか。</p>	<p>各事業所におきましては施設のホームページやチラシを作成し、施設のPRや園児募集に向けた取り組みを行っていただいているところです</p>
		<p>《見直し案》 定員変更については、柔軟に対応することが望ましいですが、利用定員を減員することで、待機児童が発生する可能性も考えられますので、慎重に行っていただきたいです。</p>	<p>定員の減員につきましては、随時保育ニーズを把握し、変更によって待機児童が発生することのないよう、慎重に検討を行ってまいります。</p>